

## 第65回 記者懇談会実施概要

1 日 時 2010年1月27日(水) 15時～17時

2 場 所 関西大学会館 グランドフロア 常任理事会議室

### 3 内 容

#### (1) 研究発表・質疑応答 (15:00～16:00)

- ・ 亀井 克之<sup>かめい かつゆき</sup> 総合情報学部教授 (社会安全学部教授就任予定者)  
発表テーマ「研究テーマの紹介と社会安全学部における研究・教育  
- 『ワイン・ウォーズ: モンダヴィ事件』からソーシャル・リスクマネジメントへ-」
- ・ 小谷 賢太郎<sup>こたに けんたろう</sup> システム理工学部准教授  
発表テーマ「ハンズフリー目視検査システムの開発」

#### (2) 学内状況説明・情報交換 (16:00～17:00)

- ① 2010年度入学試験志願者状況および当日のご取材について [資料1](#)
- ② 高槻ミュージックキャンパスの竣工式について [資料2](#)
- ③ 第14回関西大学先端科学技術シンポジウムの開催について [資料3](#)
- ④ 体育会アイススケート部の高橋大輔選手および織田信成選手のバンクーバーオリンピック出場に伴う応援会の実施について [資料4](#)
- ⑤ 平成21年度卒業式、大学院学位記授与式の挙行について [資料5](#)
- ⑥ 関大生の活躍について [資料6](#)

### 4 大学側出席者

楠見晴重学長、黒田勇副学長、林宏昭学長補佐

亀井克之総合情報学部教授、小谷賢太郎システム理工学部准教授

山本秀樹入試センター所長、福田聡入試事務局入試広報グループ長

川原哲夫学長室次長 (学長担当)、横山博行広報室次長、木田勝也広報課長 他

### 5 参考資料

- (1) 関西大学通信 第371号・第372号
- (2) 「音とスピン波」特別講演会 チラシ
- (3) 法学部セミナー「触れてみよう 法学・政治学の世界」 チラシ

以 上

## 研究テーマの紹介と社会安全学部における研究・教育

### - 『ワイン・ウォーズ：モンダヴィ事件』からソーシャル・リスクマネジメントへ-

関西大学 総合情報学部 教授 (4月 社会安全学部 教授就任予定) 亀井克之

#### 1. これまでの研究テーマ

① フランスの独自性とは何か？ なぜバンカシュランス(銀行による保険窓販)が成功したのか？

→1996年 『バンカシュランス戦略』(JPダニエル著)(関西大学出版部)

→1999年 「仏自動車工業の業界再編成史」藤本・井上編『現代経営史』第8章(ミネルヴァ書房)

② フランスの理論と実践を題材に「経営戦略型リスクマネジメント」をどのように体系化するか？

→2001年 『新版 フランス企業の経営戦略とリスクマネジメント』(法律文化社)

③ 経営戦略型リスクマネジメントの「Informationモデル」(info + RM + a(c)tion)とは何か？

→2005年 『経営者とリスクテイクング』(関西大学出版部)

④ 2つのC：リスクマネジメントの組織体制(Coordination)とリスク情報の開示(Communication)はなぜ重要か？

→2009年「現代企業におけるリスクマネジメントの役割」共著『リスクマネジメント総論増補版』第13章(同文館出版)

#### 2. 社会安全学部において取り組んでいくテーマ

社会安全学部とは？：防災・減災，事故防止，危機管理を総合的に教育・研究する日本初の学部。

ソーシャル・リスクマネジメントとは？：巨大化，複雑化，多様化，社会化したリスク(ソーシャル・リスク)に対して，企業，自治体，国家，家庭，地域が連携して対応するという概念。

どのようなテーマで教育・研究に取り組むのか？：

「ソーシャル・リスクマネジメントの一角を担う企業リスクマネジメント(RM)の諸問題」

：RMの国際規格(2009年発表IS031000)，RMの組織，リスク情報の開示，BCP など。

『ワイン・ウォーズ：モンダヴィ事件 - グローバリゼーションとテロワール』亀井克之訳，オリビエ・トレス著(関西大学出版部，2009年)に見られるソーシャル・リスクの例とは？

・南仏ワイン産業の危機と米国モンダヴィ社の南仏アンニエヌ村への進出計画の失敗

→中小企業・老舗企業・ファミリー企業のリスクマネジメント→事業承継問題

→フランス・ワイン産業の危機：地域経済とリスクマネジメント→子どもの安全

→トレス氏「中小企業経営者健康支援機構(AMAROK)」昨秋設立→中小企業経営者のメンタルヘルス

：モノ・カネのみならずヒト・ココロも対象にしたリスクマネジメント=「心の危機管理」

→テロワール(自然・地域・人)とリスクマネジメント

亀井克之 プロフィール：◎1993年 関西大学 大学院 商学研究科 博士課程後期課程単位取得。

1994年 関西大学 総合情報学部 専任講師 1997年 同 助教授 2004年 同 教授。

1997-98年 仏国給費留学生としてエクス・マルセイユ第三大学 IAE に留学。DEA(経営学)取得。

2002年 大阪市立大学 博士(商学)。学位論文『フランス企業の経営戦略とリスクマネジメント』

2005年-2006年 モンペリエ第一大学 経営学部 ERFI 客員教授

◎1985年 朝日新聞社主催 第24回コンクール・ド・フランセ 「小林正 賞」

2002年 毎日新聞社・日仏会館主催 第19回渋沢クロード賞 「ルイ・ヴィトン ジャパン特別賞」

2006年 読売新聞大阪本社主催 カルロス・ゴーン講演会「カルロス・ゴーンと学生の対話」司会兼コーディネーター

◎日本リスクマネジメント学会 副理事長・事務局長，日仏経営学会 常任理事 ファミリー・ビジネス学会理事。

## ハンズフリー目視検査システムの開発

システム理工学部 准教授 小谷賢太郎

### 【概要】

本研究は、これまでに本研究室で開発してきた福祉応用で用いられる視線入力インタフェースをもとに、工場における目視検査工程において、手を用いることなく機械援用の高速目視検査をおこなうためのハンズフリー目視検査システムを開発しようとするものである。

これまで視線インタフェースにおける対象選択の意図検出は一定時間その対象を注視することで検出されてきた。ところが、目視検査そのものが、検査のために必然的に注視をしなければ成立し得ないという性質を有しているため、注視によるインタフェース手法は、目視検査には適用が困難であるといわれてきた。これに対して、本研究ではサッカード（跳躍眼球運動）の生理的特性とスクリーンボタンインタフェースを原理とする手法を導入することで、この問題を解決し、ハンズフリー目視検査システムの開発をおこなうものである。

本研究の大きな特色として、その開発するシステムが地域振興型研究開発として位置づけられる点にある。特に本研究は、大阪、特に東大阪を代表とするものづくりとして定評のある金属製品、繊維といった業種の小規模工場が集積しており、このような産業に対して本研究で提案する、手を用いずに検査工程が高速に行なえる環境を提供することができれば、大阪という地域に根ざした経済的効果、産業振興に貢献できると考えられる。

現在、システムプロトタイプを用いて、本システムが検査効率や精度の点でどの程度有効なのかを実験的に検証を進めている。実験の結果についてはこれまでヒューマンインタフェース学会、自動車技術会などの国内発表をおこない、また、2月7日に香港で行われる **International Conference on Intelligent User Interfaces** において発表を予定している。

本日紹介するシステムは以上のような目的のもと、平成20年度より総務省 **SCOPE**（地域ICT振興型研究開発）の援助を受けてきた開発中の成果を中心に、そのデモンストレーションを交えて報告する。

### 【プロフィール】

1964年大阪府生まれ。関西大学システム理工学部准教授。専門は人間工学、生体情報工学。関西大学大学院工学研究科博士課程前期課程修了（機械工学）後、渡米し、ペンシルバニア州立大学大学院産業工学科ドクターコース修了。Ph.D. 2003年より現職。ヒューマンインタフェース学会、日本人間工学会、計測自動制御学会等の会員、IEA（国際人間工学連合）日本代表理事、NEDO生活支援ロボット実用化プロジェクト調査研究委員などを併任。